

LGBTが生きやすい世の中にするため、大学は何ができるか ～誰もが、カミングアウトを受けとめる「キャッチャー」に

◆ 2016年5月19日(木)

● 午前11時10分～午後0時40分

場所／神戸三田キャンパス
II号館102号教室

● 午後3時10分～午後4時40分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
関西学院会館レセプションホール

◆ 講師／原 ^はら ^みな ^た 汰 氏

(NPO法人共生社会をつくるセクシュアルマイノリティ支援全国ネットワーク代表理事)

*本講演会では手話通訳パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご活用下さい。

■講演内容

皆さんの周囲にLGBTの知り合いはいますか？海外では同性カップルへの社会保障が進み、日本でも2004年に戸籍性別変更が可能となり、オリンピック憲章では、今年から性別適合手術をしていなくても、希望する性別でエントリーできるようになりました。しかし地域社会では、いまだに自分を語りにくい状況が続いており、職場では40代以上の管理職の7割が「同性愛者がいたら嫌だ」と回答しているそうです。

進学を契機に地元を離れ、親や地域社会の制約が外れる分、大学はLGBTにとってカムアウトしやすい場です。息苦しかった中学高校と職場の狭間で、束の間の自由を味わえますが、相変わらず悩みは尽きません。

24時間電話相談「よりそいホットライン」LGBT回線では、年間4万件ほどの相談を受けており、その3人に1人は20代前半です。相談内容は、中高でのいじめ、友情・恋愛、親との対立に始まり、サークル申請不許可、授業でカムアウトしたら教授に咎められた、希望の性別で卒業できない、履歴書の性別欄にどう書くか、就活でLGBTサークルの活動について話すか、など様々ですが、いずれも本人が独りで解決できない悩みばかり。地域社会や地元の各機関の受け入れ態勢が欠かせません。

これからは、家庭で、学校で、職場で、カミングアウトの球をしっかり受けとめる「良きキャッチャー」が必要です。本講演会がそんなきっかけになれば幸いです。

■講師紹介

1956年生まれ。幼い頃から男女の境界辺りに棲息。思春期までは、女の子としては暮らせないが、男子としてなら生きていけそう、と感じていた。

思春期以降、周囲がどんどん男女に別れていき、事はそう簡単ではないと思い知る。

自分は何者で、どんな距離をもって他者とかわればいいのか迷い、不登校、ひきこもりに。20代は女性として生きてみるか、とがんばった。翻訳・通訳の傍らレズビアンをサポートグループ「れ組スタジオ・東京」を仲間と設立。身近にロールモデルがないなら、自分が自分の手本になろう、と思い立った30代。細分化されたカテゴリーや区切りが居心地わるいなら、横断的な取り組みをしよう。そうすれば生きるとはそう難しくもないかもしれない。40代より「Xジェンダー」と名乗る。

現在、NPO法人共生社会をつくるセクシュアルマイノリティ支援全国ネットワーク代表理事、LGBT法連合会共同代表、よりそいホットライン セクシュアルマイノリティ回線顧問、翻訳・通訳業(和英西)。

近編著：『にじ色の本棚』（三一書房、土肥いつき共編著） 原 美奈子共訳：リリアン・フェダーマン著 『レスビアン』の歴史』（筑摩書房）他多数。

総合テーマ：

Towards the Realization
of Human Rights

— 人権保障の実現を目指して
(2015～2019年度)

